ふれあいネットワーク

だれの目にも優しいカラーユニバーサル・デザインで制作した広報誌です。

やまなしの福祉

No.360
2021
7月号

特集 若者たちが育む未来

P2 NPO法人「Cafe de 寺子屋」
P5 駿台甲府高校「LINK」
P7 特定非営利活動法人 にじいろのわ
福祉情報
P8 「山梨の子ども白書」の紹介
福祉県政レポート
P9 「やまなし子供・若者育成指針」について
県社協情報
P10 介護職員対象研修のお知らせ
P11 福祉人材センター情報
P12 マッチングカフェ ほか

写真：NPO法人「Cafe de 寺子屋」の鍋谷咲希さん

子どもたちの主体的な学びを手伝う大学生がカフェで「寺子屋」

NPO法人「Cafe de 寺子屋」

各地の学生たちが中心になり、地域にあるカフェで小中高生の学び支援に取り組むNPO法人「Cafe de（カフェ・デ）寺子屋」。目指すのは「子どもたちが主体的に学ぶことができるような学び支援」。メンバーたちは「学びの楽しさを知ってほしい」と話し、地域に根ざした新たな形の学びの場として広がりを見せています。NPO法人代表の大石紗矢香さん、山梨代表の鍋谷咲希さんに伺いました。

※大石さんには、リモートでインタビューしました。

大石 紗矢香さん

鍋谷 咲希さん

Cafe de 寺子屋

NPO法人「Cafe de 寺子屋」

代　　表／大石紗矢香（おおいし・さやか）さん
（東京大学大学院修士2年 静岡県藤枝市）

山梨代表／鍋谷　咲希（なべたに・さき）さん
（山梨県立大2年 甲府市）

―「Cafe de 寺子屋」を始めたきっかけは。

大石 私の高校の先輩が山梨大学の学生で、3年前から山梨大近くのカフェ「Pied nu（ピエヌ）」で、子どもたちにボランティアで学習支援をしていたことがきっかけです。その活動がすごく楽しそうで、学生たちが行うこの活動を全国に広げていきたいと思い、SNSで呼びかけながら活動を始めました。今は、この「寺子屋ぴえぬ」をはじめ山梨、静岡のほか、東京・神奈川・岐阜・京都・北海道・島根・沖縄などでも開設を進めています。地元で愛されているCafe、その土地で暮らす大学生、そこに生まれ育った子どもたちや保護者など、地域を軸にしたつながりが生まれるようになる場をつくっていきたいと考えています。

―寺子屋の特徴は。

大石 目指しているのは子どもたちの主体的な学びのきっかけをつくることです。ただ宿題をこなすのではなく、そこから興味、関心を引き出し、自分で学びたいと思うようなものを見つけてもらうことです。塾では勉強が主な目的であり、「教える」「教わる」のある意味切り離された関係です

が、寺子屋の活動では子どもたちが取り組む自主学習を軸として、それをサポートしながら、子どもと共に学んでいくという関わりを大切にしており、学校や塾とはなんだか違う学びに出会える場所を目指しています。

―子どもたちの反応は。

大石 自宅よりも学習がはかどり、来るのが楽しいと言ってくれます。保護者からも、寺子屋に通うようになって家でも学びの習慣がついてきた、とおっしゃっていただきました。

―コロナの中での苦労は。

大石 やっぱり、学生は気持ちがあっても場所が借りられない苦労がありました。子どもたちは見た目は元気ですが、学校の勉強が早くてついていけない、という子もいます。長期の休みがあったことが影響しているのではないでしょうか。

―今後の展開は。

大石 目標は、47都道府県すべてに寺子屋をつくることです。子どもたちが思い立った時にすぐに行けるような身近な存在になりたいです。

―鍋谷さんが参加したきっかけは。

鍋谷 高校の先輩から声をかけられました。設立されたばかりの団体で自分たちの手で作り上げていくのが楽しそうだと思ったのと、地元の資源(カフェ)を生かして地域を盛り上げていけるのではと思いました。

―山梨のメンバーは。

鍋谷 山梨大学、山梨県立大学の学生18人、今年から都留文科大の学生5人が参加して都留市で開設の準備を進めています。「寺子屋ぴえぬ」は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、店主さんとの相談により昨年末から休んでいます。また昨年の「大学コンソーシアムやまなし」の事業がきっかけで「オープンカフェ　まるごとやまなし館」が声をかけてくださり、2か所目となる「寺子屋まるん」の開設準備を進めています。「寺子屋まるん」では、営業時間内に開かせていただくので、カフェを訪れた人に寺子屋を知っていただく良い機会になるのではないか、と期待しています。

―子どもたちや保護者への周知は。

鍋谷 「寺子屋を開かせてもらえませんか」と交渉したカフェが「うちでは開けないけど応援するよ」と、店内にチラシを置いてくださるなど、PRに協力していただき感謝しています。また、子どもたち同士で「昨日行ったんだ」と友人に言ってくれることで広がっています。静岡、東京では、保護者説明会的なものを開いているそうです。もっと広報したらいいのかもしれませんが、人数が多くなって実際には行けないということになっては申し訳ないので、予約制にしたいと考えています。

―大学生とボランティア活動との関わりについては。

鍋谷 私は大学生になった時に、大学生のうちにしかできないことをやりたい、と思っていました。私は看護学部ですが、大学だけではどうしても視野が狭くなります。看護とは違うところに軸を置いて活動ができたら新しい発見があるのでは、と探していた時に声をかけられました。

―活動を通じたご自身や周囲のメンバーの思いは。

鍋谷 教育学部だけでなく、工学部などいろんな学部のメンバーがいて、それぞれの関心が教育だけではなく、それに付随する何か、カフェが好きだからというメンバーもいるし、教員になりたくてというメンバーもいるし、それぞれのメンバーの思いがあって取り組んでいると思います。学生と子どもの関係にしか見えないかもしれませんが、カフェも場所を提供することで何らかのメリットが生まれ、保護者の方にしても私たちに子どもを預けることで精神的にも時間的にも余裕が生まれるかもしれません。通ってくる子どもたち同士も人間関係が広がったり、私たちとの会話の中で新たな発見や興味が生まれるかもしれません。私たちの活動によっていろんな人が、地域の皆さんが前向きになることができればうれしいです。

―子どもたちにも変化はあったのでしょうか。

鍋谷 黙々とやっているおとなしい子が多く、声をかけてリアクションがなくても、長い目で見るとその子の内側に変化があります。初めて会ったときに比べると、だんだんミスも減ってきているし、算数などでもいろんな視点で考えられるようになってきています。毎週ちゃんと通ってきてくれていますし、良い変化が出てきているのではないでしょうか。

―これからボランティアをしたい人にひと言。

鍋谷 ボランティアには様々な分野や活動があり、なかなかイメージがしにくい、ピンとこない、ということもあると思います。まずは自分の興味、関心を知るための「自己分析」をしてみるのもひとつの方法かと思います。そうした自分の傾向を知って、あらためてボランティア活動を調べてみると、違った視点でみることができると思います。コロナ禍で、なにもできないことに疑問を持っている大学生も多いのではないでしょうか。大学生は何かをしたい、という気持ちがすごくあると思います。大学生同士、皆を巻き込んで何かができたらいいな、と思います。

Cafe de 寺子屋に関する
お問合せはコチラまで

メール info@cafe-de-terakoya.or.jp
電　話 090-4113-1989（事務局）

高校生だからこそできるボランティア

3月に開催した「LINKこども大運動会」の参加者、スタッフ

高校生団体「LINK」

新型コロナウイルス感染拡大防止で休校が続いた昨年、甲府市の駿台甲府高校の生徒有志がボランティア団体を立ち上げました。「こんな時だからこそ、高校生として地域に何かできないか」。高校生ならではの発想で小学生向け学習ドリルの制作、運動会などの遊びの場づくり、困窮家庭への食糧支援などに取り組みました。発足して1年。その精神は後輩たちに受け継がれ、ボランティアの輪は確実に広がっています。

高校生団体「LINK」の前代表の入倉聖さん（駿台甲府高校3年）と現在の代表の平川いろはさん（駿台甲府高校2年）に伺いました。

前代表　入倉（いりくら） 聖（たから）さん
［駿台甲府高校3年］

現代表　平川（ひらかわ） いろはさん
［駿台甲府高校2年］

―「LINK」を立ち上げたきっかけは。

入倉　2学年上の先輩がFLAPという高校生団体を立ち上げ、地域の活性化に取り組んでいました。昨年3月、新型コロナウイルスの影響で長期間の休校になったとき、自分も「FLAP」のようなことができるのではと思い、「こんな時だからこそ、高校生だからこそできることをやろう」と、友人に呼び掛けて6人で発足しました。

名前は「地域につながっていきたい」との思いから、「LINK」にしました。最初はぼんやりしたイメージで、コロナ禍でできることも限られていたので、自分たちにできること、自分たちだからこそできることを模索して活動をしました。

―どのような活動をされてきたのでしょうか。

入倉　高校生である自分たちに求められていることができたらいいなと思いました。例えば、母子家庭のお子さんなどがいて、お母さんが買い物や家のことをやらなければならない時に、お兄ちゃん、お姉ちゃんが遊んでくれたらいいな、というのも一つのニーズで、そうした時間をつくる活動を行いました。また、自分たちが作成した学習ドリルを母子家庭や児童養護施設に配らせていただきました。「にじいろのわ」（こども食堂運営団体）と一緒に活動させてもらったとき、コロナでアルバイトがなくなって大学生が食事にも困窮している、という話を耳にし、駿台甲府高校の教職員、生徒に呼び掛けて、食材を募集したところ、カップ麺や缶詰等、かなりの量が集まりました。これまで、工作教室や運動会、食糧支援、今年3月には大運動会を開催しました。5月には、「にじいろのわ」に募集していただいた母子家庭の子どもたちとのバッグづくりや英語教室も企画しました。でも、最初からこうしたことができたわけではなく、最初は学習ドリルしかできませんでした。

クリスマス会

―平川さんが参加したきっかけは。

平川 LINKの活動は知っていて関心はありましたが、最初は入る勇気がなかったです。友人から「新しい人を募集しているよ」と聞き、入ってみようと背中を押された感じです。

入倉 その友人というのは僕たちも知っている子です。インスタグラムで(募集について)拡散してもなかなか人は来ませんでした。やはり、人づてによる信頼関係は強いです。そこで、平川さんに「体験に来てみたら?」と誘いました。

平川 次の企画の話し合いに参加させてもらいました。それが、想像していた以上に楽しくて、入ろうと決めました。

入倉 昨年の夏ぐらいから学校が再開されて、新メンバーの募集を始めましたが苦戦していました。その頃、自分たちも悩んでいました。ドリルを作って配ったくらいで、ほとんど実績もない状態でしたので。こういた状態で、平川さんが入ってきてくれたのは感謝しかなかったですね。

―1年たっての感想は。

入倉 そんなに多くのことはできないと思っていたら、「にじいろのわ」に関わらせていただいたことで、広がりました。「にじいろのわ」からは、大人の視点での判断やアドバイスをいただく一方、企画とかは自由にやらせていただき、すごくやりやすかったです。お母さん方からLINEへ長文のお礼のメッセージをいただいたり、ぼくたちの名前を憶えてくださったり、ドリルをしている子どもさんの写真を送ってくださったり、またぜひ、と言っていただけました。自分たちを必要としてくれているということが嬉しい。この1年は自分たちにとってすごく大きかった、と思います。

―コロナ禍で苦労もあったのでは。

入倉 やりたいことができないこと、クオリティを下げなければならないことです。1月に企画した凧揚げも、西庁舎を会場に提供していただいた甲府市役所の方ともぎりぎりまで協議し、準備をしたのですが、直前に中止になったのは、子どもたちが楽しみにしてくれていただけにつらかったです。

―今年のメンバーは。また活動の計画は。

平川 3月までは14人で、今3年生が抜けたので8人。新メンバーを募集しています。あと5人くらい入りそうです。現在の活動は母子家庭の子ども対象が中心ですが、高齢者の施設での活動もしたいと考えています。今のコロナ禍では、リスクが高くて難しいですが、状況を見て実現したい。

―高校生とボランティアについてどう思いますか。

入倉 意外と高校生はボランティアに関心があると思います。高校2年生のときは、部活をやっていてもいなくても、割と時間があると思うので、声をかけると、いこうかな、と興味を示してくれます。

―高校生が一歩踏み出すきっかけについては。

入倉 人のつながり、信頼関係です。知っている人がいるから、あの人がやっている、とか。大人がやっているボランティアに参加するのと、学生がやっているボランティアに参加するのではハードルが違うのではないでしょうか。ぼくもFLAPの先輩がいたからですし、ぼんやりボランティアしたいと思っていてもどうやっていいかわからないのが実情です。高校生はもっともっと可能性があると思います。「LINK　年次活動報告書」のイラストを描いたのもメンバーです。普段絵を見てもらう機会はなかなかないですが、活動を通じて絵を人に見てもらえる機会ができます。英語が得意な人は、子どもたちに教えるとか、教員志望の人は、子どもたちの遊び相手をしてくれるなど、それぞれの持っているものを生かして活動しています。ぼくは人としゃべるのが好きですが、この1年でもっと好きになりました。自分の好きなこと、特技がボランティアにつながると思うので、そうした場所を今後もつくっていきたいです。

子どもへの支援を通じて若い子たちのチャレンジを応援していきたい

特定非営利活動法人 にじいろのわ

県内の子ども食堂の運営団体でつくる特定非営利活動法人「にじいろのわ」。新型コロナウイルスの感染拡大で、子ども食堂の開催が難しくなった昨年春以降、食材を配布する「フードパントリー」に軸を移して活動しています。コロナ禍での活動をきっかけに前掲の駿台甲府高校「LINK」など、高校生、大学生のボランティアとの連携が生まれ、いまでは活動の中で重要な役割を果たしています。若者とボランティアについて、「にじいろのわ」理事長の土屋茂さん、専務理事の内藤陽一さんに伺いました。

理事長　土屋　茂さん

専務理事　内藤陽一さん

Q. 新型コロナウイルスによる子ども食堂への影響は。

A. 子ども食堂の開催が難しく、現在もフードパントリーの活動をしています。子ども食堂とは違って一人ひとりと「最近どう?」と話しながら手渡すことで、いままでとは違うコミュニケーションが生まれました。それまで気づくことができなかった、それぞれの家庭や生活で必要とされていることが分かるようになりました。

Q. 活動に高校生などの若者が参加したきっかけは。

A. SNSを通じて私たちに連絡をくれたことがきっかけです。彼らは自分たちで企画を立てて積極的に提案してくれていて、昨年12月には、母子家庭の子どもたちとのクリスマス会を開催しました。いまでは、イベントの内容については彼らが中心になって企画しており、我々大人はそれを実現するための環境整備などのサポートをする役割分担が生まれています。

Q. 高校生のボランティアの印象は。

A. 彼らがいるからこそ、子どもたちが参加してくれていると感じています。子どもたちにとってはイベントの内容よりも「お兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に時間を過ごしたい」と思っているようです。彼らは、子どもたちにとっても良いモデルになっているようで「同じ高校に行きたいから頑張る!」といったモチベーションも生まれています。彼らは子どもたちと年代が近いからこそ、子どもたちも心を開いて色々な話をしているようです。子どもたちのなかなか大人に言えない悩みや、困っていることについて活動の中で気づいてもらうことで、必要な支援や次の企画に生かしていけたら、と考えています。

Q. ボランティアに関心がある若者へアドバイスを。

A. 実際にこんな事例がありました。「子ども食堂をやりたい」と教師に相談したところ「できるわけがない」と言われた高校生が私たちのところに来ました。僕らは「どうしたら実現できるか考えてみよう」とアドバイスしました。高校生たちは自分たちで考え、活動を組み立てていく中で、賛同してくれる人たちが集まってきた結果、自分たちの力で子ども食堂の立ち上げを実現しました。まず、やりたいと思ったら言葉に出して発言することが大切です。挑戦してあきらめることと、机上で考えてあきらめることはまったく違います。必ず周りには応援してくれる人がいるので、まず声を上げ、やってみましょう。そして私たち大人は、高校生たちの企画に対し「無理だ」というのではなく「どうやったら実現できるのか」、を同じ目線に立って一緒に考えて取り組むことが大切だと思います。若い子たちが主体的にチャレンジし、成功や失敗の経験を重ねていける場を増やしていけたら、と思っています。同じ目的や目標を持って活動している仲間として、今後もお互いに応援してきたいと思っています。

福祉情報コーナー

福祉に関連する情報や書籍などを紹介します。

書籍の紹介

2021
山梨の子ども白書
子どもたちのしあわせを願ってよっちゃばる

子どもたちをとりまく状況は年々厳しさを増しており、子どもと学校をめぐる問題は、もはや学校のなかだけでは解決が難しくなっています。

そうした中、山梨県内においても多くの団体や個人が、子どもたちに心を寄せ、「教育」、「居場所」、「食」、「文化」などを通じた様々な活動に取り組まれています。

今回、それぞれの活動報告とともに、活動を通じ見つめてきた山梨の子どもたちの実態をまとめた「山梨の子ども白書」が発刊されました。

内　容

特集1「コロナ禍と子ども」／特集2「山梨の子どもと貧困」／特集3「山梨の教育政策」／子どものいのちと健康／子どもと家庭／子どもと福祉／子どもの権利条約／子どもと学校／子どもと地域／子どもと文化／フクシマから10年／ほか

山梨の子ども白書編集委員会からのメッセージ

県内には子どもと教育に心を寄せながら活動しておられる方々がたくさんいらっしゃいます。その方々の緩やかなネットワークを作れないか、というのが今回の白書刊行のきっかけでした。結果として60名を超える個人や団体から執筆陣をお迎えすることができました。これから、様々な機会を通じて皆さんの交流の場をつくる活動を進めていこうと思います。

また、今回ご執筆いただけなかった皆さんとのつながりを作るべく、次の白書づくりを進めていきたいと思います（山梨大学教授：日永龍彦）。

購入方法および問い合わせ先

事務局に直接電話でご連絡いただくか、メールでの申し込み、または柳正堂・朗月堂で購入いただけます。

問い合わせ先　山梨の子ども白書編集委員会事務局 佐藤浩美
☎090-6479-4842　mail:ymns.kdm@gmail.com

YAMANASHI

やまなし子供・若者育成指針の概要

山梨県教育庁生涯学習課

基本理念

夢と志を持ち、健やかに成長し、
他者と協働しながら、
やまなしの未来を切り拓く
「子供・若者」を育むために

4つの重点項目

- 障害のある子供・若者への支援の充実
- 外国人等、特に配慮が必要な子供・若者への支援の充実
- インターネットの適切な利用に関する取組の推進
- ふるさと山梨のよさを理解し、誇りと愛着を感じ、未来を切り拓く子供・若者育成の推進

5つの基本目標を掲げ施策を推進

■は取組の柱　■は重点的な取組の柱
()内は指針の進行管理に用いる指標の例

1 全ての子供・若者の健やかな成長に向けた支援	■基礎的能力である「知・徳・体」の育成 ■社会的・職業的自立に必要な能力の育成 (全国学力・学習状況調査の全国正答数との比較割合など)
2 困難を有する子供・若者やその家族へのきめ細かな支援	■いじめ、不登校、高校中退者、ひきこもり、ニート等への支援 ■障害のある子供・若者への支援の充実 ■非行・犯罪防止対策と立ち直り支援 ■外国人等、特に配慮が必要な子供・若者への支援 ■貧困等、困難を有する子供・若者やその家族への総合的な支援 (各機関で相談・支援を受けている不登校児童生徒の割合など)
3 子供・若者の成長を社会全体で支える環境づくり	■家庭・学校・地域の相互連携による教育力向上 ■子供・若者を取り巻く社会環境の健全化 ■インターネットの適切な利用に関する取組 (低年齢層に向けたネット利用に関する出前講座の実施数など)
4 子供・若者の成長を支える担い手の養成	■子供・若者の成長を地域で支える担い手の養成 (「やまなし保育フェア」の参加者数など)
5 やまなしの未来を切り拓く子供・若者への応援	■ふるさと山梨のよさを理解し、誇りと愛着を感じ、未来を切り拓く子供・若者育成 (県出身学生〈新卒者〉のUターン就職率など)

指針の推進

- 指針の進行管理(青少年総合対策本部幹事会、青少年問題協議会を活用したPDCAサイクルを実施し、施策の実効性を高める)
- 県民意識の啓発(県民のみなさんへのメッセージの発信、リーフレットの作成、青少年育成団体と連携・協働し県民意識を高める取組の実施)

やまなし若者まちづくりチャレンジ協働事業

※「基本目標4」を具現化した取組

事業の概要　若者が豊かな発想や行動力、ネットワークを利用して、主体的にまちづくりに参画することで、将来の地域リーダーとしての資質向上を図る。

ワイワイ・興譲館スペシャルプレゼンツ
都留七福神巡り

都留七福神めぐりとは、毎年、正月三が日から15日までの間に各寺院に祀られた七福神を巡拝し、御朱印を集める行事です。昭和60年から、開運や家内安全などの願いを込めてお参りできるよう谷村・宝・禾生地区の曹洞宗七カ寺が協力して始まりました。

令和2年度は『ワイワイ・興譲館スペシャルプレゼンツ都留七福神めぐり』と題して、1月9日(土)・10(日)・11(月・祝)の3日間、御朱印を集めるとプレゼントがもらえる特別企画をワイワイ実行委員会(都留支部)で考案し、広報活動や事前準備、当日の運営を行いました。

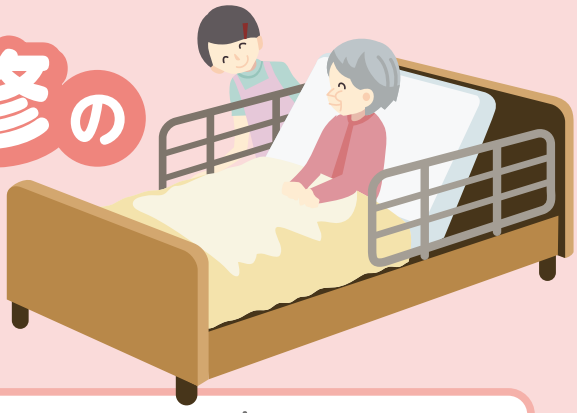
缶バッジ作り

当日の受付・説明

自分たちが企画して実施できたので達成感がありました。メンバーでお互いに案を出し合ったり、活動にご協力いただくため寺院やお店などを訪ねたりした体験はとても良い経験となりました。また、活動する中で様々な問題が立ち塞がりましたが、解決策を考えることから学ぶことも多くありました。この経験を今後に活かせればと思います。そして、何より地域の人々との交流を通じ良い関係を築けたので、とても楽しく活動することができました。　(都留興譲館高校:Kさん)

地域の担い手として活躍する子供たちの活動をみんなで支えていきましょう!

介護職員対象研修のお知らせ



〈参加無料〉定員各30名

研　修　名	開催予定日	開催時間
●テーマの介護技術（基礎）について習得したい方を対象とした研修		
★ターミナルケア・グリーフケア	7月15日（木）	10:00～16:00
化粧療法	8月24日（火）	13:30～16:30
★レクリエーション技術	9月17日（金）	10:00～15:00
★高齢者のためのフットケア	10月7日（木）	10:00～16:00
認知症高齢者の理解（2日間1コース） ※2日間の受講が可能な方に限ります。	10月22日（金） 12月3日（金）	10:00～16:00
★高齢者のためのアクティビティ	10月26日（火）	10:00～16:00
トランスファーの基礎知識	11月15日（月）	10:00～16:00
●高齢者の住環境の整備（住宅改修や福祉用具の導入）についての研修		
福祉用具・住宅改修指導者研修（2日間1コース） ＊高齢者の住環境の整備（住宅改修や福祉用具の導入）などについて理解を深めます。 ※2日間の受講が可能な方に限ります。	11月9日（火） 11月10日（水）	9:30～16:30
●福祉用具を活かして介護技術の向上を図る研修		
福祉用具関連実証研修会（2日間1コース） 本年度のテーマ「拘縮予防・改善のための介護」 ＊拘縮の苦しみを軽減するための身体の動かし方やポジショニングについて学びます。 ※2日間の受講が可能な方に限ります。　※テキスト代がかかります。	11月18日（木） 11月19日（金）	10:00～17:00

★印の研修はセンター開催と同時にZoomによるオンライン配信を行います。申し込み時にどちらかを選択してください。

会場　山梨県福祉プラザ 1階介護実習室 または 4階会議室

お申し込み方法

山梨県立介護実習普及センターのホームページからお申し込みください。
電話、FAXでの申し込みは受け付けませんのでご注意ください。

※各研修とも、新型コロナウイルス感染症の影響等により中止する場合があります。
その場合は本会ホームページなどでお知らせするとともに、受講申込者に連絡します。

お問い合わせ　介護実習普及センター　☎055-254-8680

＼福祉・介護の仕事のことなら／

山梨県福祉人材センターへ

求人登録が多い施設、求職者に求めている職種・資格

少子高齢化が進み、福祉・介護サービスの需要や重要性が高まる一方で、福祉・介護業界では慢性的な人手不足が続いています。

こうした中、令和3年4月末時点の山梨県福祉人材センターへ求人登録をしている施設・事業所（以下「施設等」）数は延べ451件、募集人数（求人数）は537人でした。

これに対して求職者は106人おり、当センターにおける有効求人倍率は5.07倍で、求職者1名に対し約5施設等から求人があることになり、求職者にとっては仕事を探しやすい環境と言えますが、施設等の現場は人手不足にあることが伺えます。

そこで、今号では、求人登録が多い施設、また求職者に求めている職種や資格などをご紹介します。

求人登録の多い施設・事業所

- 通所介護事業所……83事業所
- 特別養護老人ホーム……59事業所
- 認知症高齢者グループホーム…52事業所

求人施設・事業所が求めている職種

- 介護職……285人
- 看護職……57人
- 相談・支援・指導員…57人

求人施設・事業所が求職者に求めている資格

- 介護福祉士……113事業所（取得見込含む）
- 介護職員初任者研修修了者…99事業所（修了見込含む）
- 特になし……70事業所

それぞれ上位のトップ3は上記のとおりですが、求人登録の全体の状況は当センターのホームページに掲載していますので興味のある方は是非ご覧ください。

また、求職者に求めている「資格」については、求人側は必ずしも福祉・介護に関する資格を持った方を求めているわけではありません。資格がなくても介護業務の補助ができる方や働きながら資格を取得する方も増えています。

当センターでは、介護業務を補助（サポート）できる方を求人施設等へご紹介したり、また働きながら資格を取得したい方への受講費用の助成や貸付を行っていますのでくわしくは当センターへお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先
山梨県福祉人材センター
400-0005 山梨県甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ4階
TEL.055-254-8654　平日9時～17時まで

この広報誌の作成費用の一部に赤い羽根共同募金配分金を充てています。

福祉のおしごと マッチングカフェ

採用予定のある事業所と、お仕事を探しているあなたをつなぐ、個別面談・相談会を行います。

7月の予定

- 7日(水) 共立介護福祉センター　他（わかまつ、たから、ももその、いけだ、いさわ）
- 14日(水) 介護老人保健施設 ひばり苑
- 28日(水) スカイコート勝沼(障害者支援施設)

時間　14:00～16:00
会場　山梨県福祉プラザ4階 福祉人材センター
問い合せ先　福祉人材センター　055-254-8654

地域別小規模就職相談会を開催します

地域を限定して仕事を探したい、自宅に近いところで、空いている時間を活かして仕事をしたい、または、福祉の仕事に興味はあるけれど、まだ具体的な就職活動はしていないという方々に、求人事業所の人事担当と直接情報交換して頂く場を設けます。

※事前申し込みは不要です。※オンラインでの開催の場合は、WEB会議ツール Zoomを使用できる環境があることが必要です。
※新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、中止または開催方法を変更する場合があります。

〈 日程・対象エリア 〉

対象エリア	開催日(回)	開催方法・時間・会場
郡内エリア	7月20日(火)・21日(水)	※オンライン形式
峡 中(南アルプス市を除く。)	9月24日(金)	開催方法：対面式相談会 開催時間：13時30分～15時30分 会　場：山梨県福祉プラザ 4階会議室（甲府市北新一丁目2-12）
峡 東	10月22日(金)	
峡 南・南アルプス市	11月26日(金)	
峡 北	1月28日(金)	
峡 中(南アルプス市を除く。)	2月25日(金)	

読者アンケートのお願い

今後の広報誌づくりの参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。
※右のQRコードよりご回答ください。

広報誌「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

ホームページ http://www.y-fukushi.or.jp

7月号は以下の通りです。

7月号のID
yfukushi360

Android用　iOS用

※パスワードは必要ありません

WEBサイトができました!

https://sites.google.com/view/y-fukushi-jinzai

Twitterができました!

https://twitter.com/yfukushi1

twitter

山梨県福祉人材センター

LINE@ 友だち募集中。

友達登録で人材センター情報をGET!!

山梨県福祉人材センター

発行 社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会 〒400-0005 甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ TEL055-254-8610 FAX055-254-8614 http://www.y-fukushi.or.jp/